

山梨県

(1) 事業実施期間

平成 22 年 11 月 2 日 (火) から平成 22 年 11 月 15 日 (月) まで

(2) 運営スケジュール

貸与期間中、図表-1のようなスケジュールで貸与された燃料電池自動車を活用し、市民等への普及啓発に努めた。

図表-1 運営スケジュール (山梨県)

日程	内容
11月 2日(火)	搬入 運転講習会 山梨地域産業活性化協議会 4 2 名を対象に展示。
3日(水)	富士スバルラインでの標高差走行試験 富士山 5 合目駐車場における展示、理解促進活動 高速道路走行試験
4日(木)	県庁政策担当職員向け体験試乗会
5日(金)	ホンダカーズ山梨緑が丘店での展示、説明会
6日(土)	ホンダカーズ山梨緑が丘店での展示、説明会
7日(日)	ホンダカーズ山梨本社での展示、説明会
8日(月)	県民希望者に対する展示・説明会
9日(火)	県内企業に対する説明、試乗会 (ファナック)
10日(水)	山梨県知事公用車使用
11日(木)	県内企業に対する説明、試乗会 MARS、アスクテクニカ、タカハタプレシジョン
12日(金)	山梨県燃料電池実用化推進会議展示、副知事公用車使用
13日(土)	県民の日展示、説明会
14日(日)	県民の日展示、説明会
15日(月)	搬出

(3) 実施内容

期間中に図表-2のような内容で、展示・試乗会を実施し、76名の体験試乗、約1,500名の体験同乗、約1576名の乗車体験があった。

図表-2 運転試乗・体験同乗の概要(山梨県)

日程	内 容	対象人数	運転者数	同乗者数
11/2	搬入 運転講習会	3	3	—
	山梨地域産業活性化協議会展示・説明	42	—	42
11/3	富士スバルラインでの標高差走行試験	2	1	1
	富士山5合目駐車場における展示、理解促進活動	約200	—	38
	高速道路走行試験	2	1	1
11/4	県庁政策担当職員向け体験試乗会	5	5	—
11/5	ホンダカーズ山梨緑が丘店での展示、説明会	80	5	13
11/6	ホンダカーズ山梨緑が丘店での展示、説明会	約180	—	37
11/7	ホンダカーズ山梨本社での展示、説明会	約220	—	104
11/8	県民希望者に対する展示・説明会	17	1	16
11/9	県内企業に対する説明、試乗会 ファンク従業員	12	1	11
11/10	山梨県知事公用車使用	3	1	2
11/11	県内企業に対する説明、試乗会 MARSアステクニカ タカハブレンジョン従業員	57	57	—
11/12	山梨県燃料電池実用化推進会議展示 副知事公用車使用	33	1	32
11/13	県民の日展示、説明会	約35,000	—	約500
11/14	県民の日展示、説明会	約50,000	—	約700
11/15	搬出			
合計		約86,000	76	約1,500

※運転及び同乗ともに体験した者は、運転者数だけにカウントしている。

(4) 事業の周知方法

- 貸与された広報用パネルの展示、パンフレット配布による広報
富士山5合目駐車場における展示、県庁政策担当職員向け体験試乗会、
ホンダカーズ山梨での展示・説明会、県民の日展示・説明会等
- ホンダカーズ山梨によるホンダユーザーに対する周知
- 県内燃料電池関係企業経営者、従業員に対する説明、試乗会
- 知事、副知事による公用車使用及び各種会議挨拶で燃料電池自動車に言及すること
等による周知

(5) 利用の様子

内容：富士スバルラインでの標高差走行試験・・・11/3

場所：富士スバルライン富士山料金所（標高1,087m）～富士山5合目駐車場（標高2,305m）



内容：富士山5合目駐車場における展示、理解促進活動・・・11/3
（説明、パンフレットの配布、運転席に座乗しての写真撮影）
場所：富士山5合目駐車場



内容：ホンダカーズ山梨本社での展示、説明会・・・11/7

場所：山梨県甲府市内



内容：県内企業に対する説明、試乗会・・・11/11

①MARS株式会社（山梨県中央市）社員への説明状況



②株式会社アスクテクニカでの説明



③タカハタプレジジョン株式会社での説明、試乗の状況



(6) 報道実績等

山梨日日新聞（平成22年11月8日）

水素と酸素で発電
燃料電池車を展示
甲府ホンダカーズ山梨
ホソタの燃料電池車「FC
クラリティ」の展示会が7
日、甲府市国母6丁目のホン
ダカーズ山梨（永野栄社長）
で開かれた。

本社の産業の化学反応によ
って発電し、モーターを動か
す燃料電池車。二酸化炭素を
排出しないため、次世代のク
リーンエネルギー車として期待する普及活動の一環で山梨県
待たれている。環境省が推進が待りの受け、同日は同社に展
示された。13、14日に
は小瀬スポーツ公園で
展示会が行われる予
定。担当者は「環境に
配慮した究極の車。多
くの人の見てもらいた
い」と話していた。

燃料電池車「FCXク
ラリティ」の説明を受
ける見学者
■甲府市国母6丁目

(7) 高速道路走行、標高差走行について

1) 実施日時 平成22年11月3日(水) 10:00~16:30

2) 参加者 山梨大学ナノ材料研究センター、山梨県

3) 走行コース

i. 高速道路走行

双葉SAスマートインター~河口湖IC 69.5km

ii. 標高差走行

河口湖IC~富士山五合目(29.8km標高差1,448m)~御坂峠~

山梨大学燃料電池ナノ材料研究センター(94.1km標高差2,055m)

*河口湖IC(標高857m)

富士山五合目(標高2,305m)

燃料電池センター(標高250m)

4) 走行結果

i. 高速道路走行

①高速走行時の安定性および加速性能

高速走行時の車両安定性は申し分がなく、快適な高速運行であった。高速走行時の加速性能は申し分なく、通常の国産車の3.5リットルクラス(レジェンド)を凌駕する加速性能を感じた。

②高速走行時の静粛性

高速走行時に限らず、ヒューンというコンプレッサーが発生するような音が感じられた。

ii 標高差走行

①標高上昇時

上り坂でも非常に滑らかに加速し、国産の中型車よりもはるかに力強い印象を持った。

②最高標高(標高2,305m)における始動

停止、始動を何度か繰り返したが、全く問題なく始動した。気温は12度。

③標高下降時.....(マルチインフォメーションディスプレイ算出値より)

約94kmの富士山五合目~山梨大学ナノ材料研究センターまでの実際の総距離に対して、御坂峠~甲府盆地までの下り区間は走行可能距離が伸び、甲府盆地の平地に入ってからわずかに走行可能距離を消費した。

結果として、約94km間を走行可能距離にして7kmの減少で走った。

5) 走行後の感想

高速道路や標高差のある道路においても、自動車に必要な、走る、曲がる、止まるという性能については、非常に高いレベルで達成されていると感じた。